

2018WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 10 (7/28)

2日連続で前日の夕方にスケジュール変更となったが、全てが問題なく動いている中、大会4日目を迎えました。日本代表チームはこの日が最終レースとなるクルーが大半になります。

BLW4xクルーのメダルをかけた戦いや、オープンウェイトで初の決勝進出を目指すBM2xの準決勝A/Bなど見どころが満載です。

9:50 BLM1x C決勝

この組の選手たちは昨日ハードなレースを2本漕いだ選手たちだが、疲れも見せずにスタートから積極的に主導権争いを始める。ポルトガル、チェコが飛び出しチュニジア、日本、ベルギーが横一線で追う展開で500mを1位ポルトガルから3.36秒差の5位で通過。第2クォーターでもポルトガルがレースをリードするが、決定的なリードは奪えず混戦のままレースは後半へ。第3クォーターで日本がジワリとポジションを上げる。ここでチェコがポルトガルに代わりトップに立つが、1位から5位までの差はほとんどないままラストクォーターへ。日本も懸命に仕掛け3位のトルコをかわすが、5位に着けていたベルギーにかわされ順位は変わらず4位でゴール。初の世界の舞台を16位で終えた。

ーッ



リラックスした表情で出艇

観客席から見える大型ビジョンでレースの途中経過が報告される。一番手前が日本。



毎レース激しいデッドヒートを繰り広げ観客席を大いに沸かせたBLM1x伊藤選手(早稲田大学)。今大会を締めくくるレースも大いに観客を沸かせ会場のアナウンスでも「ダイキイトウ」が連呼された。

10:05 BW2- C決勝

スウィープ種目に果敢に挑んだ高野選手(立命館大学)と西原選手(東北大学)。今大会を締めくくるレースもスタートから出られる苦しい展開になったが、必死に2位スペインに食い下がる。1位を走るロシアからは第1クォーター、第2クォーター共に約5秒ずつ離されるが、少しでも速いスピードを求めるBW2-クルーは集中力を切らず、離される秒差が後半になるにつれ少なくなる頑張りに応援する側も胸が熱くなる。ラストクォーター、前を行くクルーとの差は開いているものの必死のラストスパート。オープン女子のスウィープへのチャレンジは15位で幕を閉じた。



出艇前的大林ヘッドコーチとのミーティング。



最後まであきらめない姿勢が感動を呼ぶ。



レースごとにパフォーマンスを上げたBW2-クルー。

左からS高野選手(立命館大学)、B西原選手(東北大学)

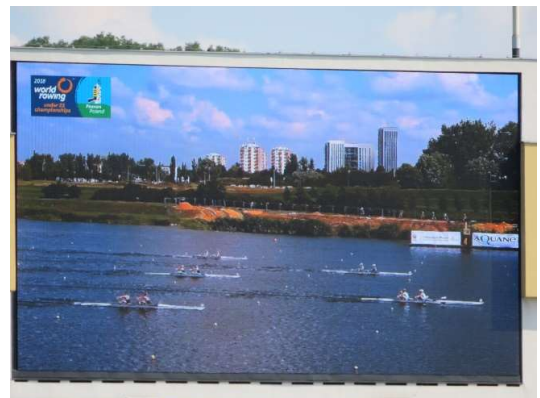
10:15 BW2x C決勝

スタートから積極的攻め僅かながらもトップに立つ。その後艇速のダウンを最小限に抑えたロシアが1位に出るが、日本も食らいつく。500mは1位ロシアと1.66秒差の2位で通過。3位デンマーク、4位ノルウェーと続く。第2クォーター、ロシアに食らいつきながら2位のポジションを確立していく。レース後半の第3クォーターに入ると日本の集中力が一時離されかけていたロシアとの差を詰めはじめる。1500mは1位ロシアと1.64秒差の2位で通過。第3クォーターのラップタイムは6艇中1位である。ラストクォーター、力を振り絞り段階的にスパートを入れる日本。1位ロシアに追いすがりながら2位を死守して、相当14位でレースを終えた。



スペアレース後は毎レースビデオを撮る安井選手(BLW1x)と、応援をする野村トレーナー

大型ビジョンで映し出されるレースの様子。
2位を突きすすむ日本。



ラストスパートで順位は変わらなかったが、堂々としたレースを演じたBW2xクルー。

写真左からS米川選手(早稲田大学)、B中条選手(DENSO)

12:05 BM2x 準決勝A/B

A決勝をかけた大一番。世界の本気がスタートから炸裂する。日本はその流れに乗り切ることが出来ずに、スタートで出遅れ苦しい展開に。500mを1位イタリアから遅れること7.04秒、3位ギリシャからは4.21秒差をつけられる。第2クォーターに入っても流れを止められずに、6位のままレースは進んでいく。後半も大きく変わることもなく6位でゴール。明日のB決勝に進むことになった。



2018 WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS	
SEMIFINAL A/B 1 - BM2X	
	STROKERATE
1 JPN 	33
2 SLO 	34
3 GER 	35
4 ITA 	36
5 GRE 	36
6 RSA 	36

POZNAN, POLAND www.worldrowing.com

↑大型ビジョンで苦しい展開が映し出される



一番奥が日本。序盤から苦しい展



ゴール前の必死のローイング。
写真左からS櫻間選手(同志社大学)、B木村選手(日本大学)

14:30 BLM4x B決勝(7～12位)

スタートからオーストリアとドイツが飛び出し、あとは横一線で追う展開に。日本は落ち着いて入り、横一線のグループの中にとどまる。第2クォーターに入ってもドイツとオーストリアがレースを引っ張る。3位争いには日本とイギリスが踏みとどまり第3クォーターへ。第3クォーターでは日本とイギリスが競り合いながら、ドイツとオーストリアとの差を詰めはじめる。ラストクォーター、満を持して日本クルーが猛然とスパート。先行するイギリスとオーストリアを抜き去りドイツに続き2位でゴールに飛び込み、総合8位に食い込んだ。



1000m地点。手前が日本。



ラストクォーター、クルーの歯車が寸分の狂いもなくかみ合い艇速を一気に引き上げる。



タフなレース展開の中、2位でゴールに飛び込むBLM4xクルー。

写真左からS宮浦選手(中央大学)、3武田選手(関西電力美浜)、2新井選手(慶應義塾大学)、B一瀬選手(仙台大学)

15:55 BLW4x A決勝(1～6位)

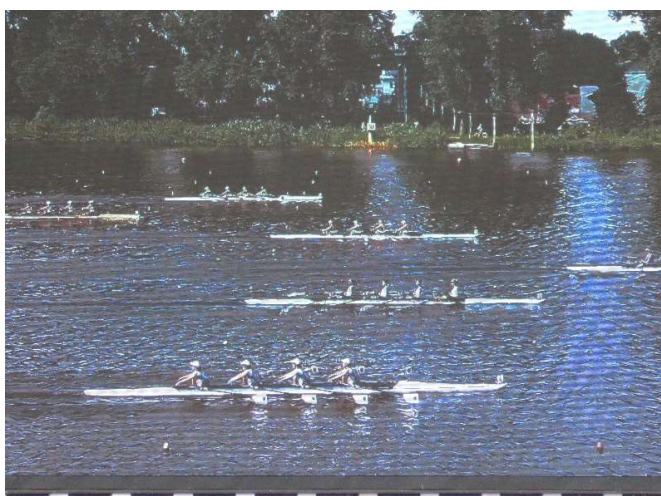
BLW4xクルーの世界一をかけた戦いは、スタートから攻めたてる展開で始まった。スタートは横一線、その後イタリアが抜け出し、フランス、オランダ、日本が続く展開で500mを1位イタリアから3.51秒差、3位オランダから0.62秒差。メダルは十分射程圏内に収めている。第2クォーター、何とか粘りたいところだが、隣のレーンのフランスとの差が徐々に開き始める。1000m通過も4位は変わらないが、1位イタリアとは7.46秒差、3位フランスとは1.89秒差。メダルは十分に狙えるポジションに着けている。第3クォーター、スピードを上げたいところだが他の国も譲らない。これが世界一をかけた戦いだ。ここで後半強いドイツに並ばれ少し前に出られ5位に後退。ラスト500m、メダルまで2.71秒差の中必死のスパートの応酬が始まる。各国とも一歩も譲らないビッグレースは1位でイタリアがゴールに飛び込み、続いて2位オランダ、3位フランス、4位ドイツと続き、3位フランスから3.1秒差で日本がゴール。惜しくもメダル獲得とはならなかったが、最後の最後まで見ごたえのある価値あるレースを魅せてくれた。



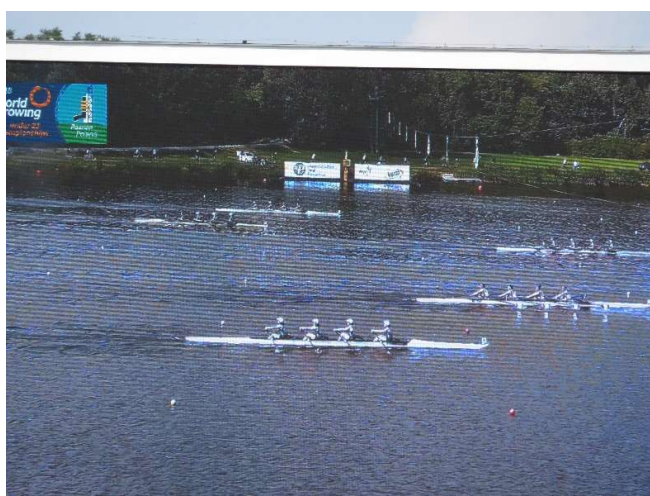
笑顔でスタートに向かうBLW4xクルー



スタートは横一線



500m地点。世界のトップスピードに食らいつく日本
(写真手前)



1000m地点。何とかメダル争いに踏みとどまりたい
日本(写真手前)



ゴール前、最後の力を振り絞るBLW4xクルー。写真左からS瀧本選手、3成瀬選手、2高島選手（以上3名明治大学）、B石垣選手（法政大学）

明日は最終日。BM2xのB決勝を残すのみとなりました。最後の最後までチーム一丸となって戦って参りますので、ご声援よろしくお願い致します。